
変態で何が悪い！！

ぱんち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変態で何が悪い！！

【Nコード】

N7544B

【作者名】

ぱんち

【あらすじ】

変態と評判の男の子の、変態を貫き通そうとする物語。

（前書き）

初作品です。ヘタクソだけどよろしく！

「くふふふ……」

皆さんこんにちわ。

俺の名前は神川涼太郎。
かみかわりょうたろう

現在青春真つ只中の高校1年生だ。

今は放課後で、俺は本屋で立ち読みをしている。

…のだが、俺の周囲だけやけに人口密度が低い。

「へへへへ……」

まあ当然だろう。

なんせ高校生がニヤけながらエロ本を熟読しているのだから。

おかげで俺の息子は元気爆発です。

俺はエロ本を棚に戻し、前屈みにもならず元気な息子を連れながら本屋をでた。

こちら辺で俺を知らない人間はいない。

俺は『今世紀最大の変態』と呼ばれ、ある者からは軽蔑を、ある者からは恐怖を、ある者からは尊敬を込めた視線を向けられているのだ。

俺の天敵である両親は今、日本にはいない。

父が仕事の都合で海外へ行き、母はそれについていった。

俺もついてくるよう言われたのだが、必死の説得が伝わったのか残れるようになった。

よって誰も俺を止めることができる者はもういないのだ！

……そう、思っていた。

翌日の放課後、また俺は前日の本屋にいた。

「…で、どれがチミのオススメだい？」

「え…えつと…」

新人のアルバイトの若い娘にエロ本のオススメを聞くというセクハラを実行中の俺。
我ながらかなり変態だ。

…やめないけど。

「ほらほら、黙ってちゃわかんないよ」

「う……」

バイトの娘が半泣きになっている。

…やめないけど。

「じゃあこっちの本についてどう思ってるばあっ!」

俺が追い討ちをかけようとしたらぶん殴られた。
アゴがはずれそうです。

「何してんの!アンタ変態!?!」

みると俺を殴ったのはアルバイトの娘ではなく、見知らぬ姉ちゃんだった。

彼女は黒のロングヘアーで顔立ちの整った、いわゆる美人さんだった。

先程のパンチがかなり痛かったので報復として北。神拳をお見舞いしてやるうかと思っただが、美人さんなので許してやるう。

感謝しな!

「何当たり前のことと言ってやがる!お前俺のこと知らないのか!?!」

自ら変態と認める俺。

「え!?何だお前!」

「知らないなら教えてやるう!!」

我が名は神川涼太郎!15歳!身長172センチ!体重59キロ!
現在恋人募集中なのでお家庭に1人どうですか(?!)!スリーサイズは上から――!」

「それ以上喋るな!?!……って『神川』?」

ん？

なんか姉ちゃん黙っちゃったよ？

まあ大方俺と知らずに関わった事を後悔しているのだろうが、今更手遅れ。

お前にはセクハラフルコースをプレゼントしよう！

「オイ姉ちゃ——」

「ちよつと来なさい！」

姉ちゃんが俺を裏路地に引つ張っていく。
いやん、まだ心の準備がつ。

「アンタもしかして翔太郎しょうたろうさんと香織かおりさんの息子？」

「あ？なんでお前が俺の親の名前知ってんだ？」

俺が答えた瞬間頭を抱えて絶望する姉ちゃん。

…？

話を聞くと姉ちゃんは雨坂遥あまさかはるかといって、行き倒れていたところを俺の両親に救われたらしい。

行き倒れって……

それで何かお礼がしたいと告げたところ、俺を教育し、まともな人間にしてほしいと言われたらしい。

なんか予想以上に変態だから絶望したっばい。

…怒っていい？

「というわけで今日から住み込みで教育するから」

「うん、わかった！」

「軽っ！！拒否しなさいよ！問題大アリでしょ！」

「そんな問題大歓迎さ」

「この変態！！」

自分から言ってきたくせに。

そんなこんなで俺たちの同棲生活が始まった。

「やめろおおおお！！俺の秘蔵コレクションがああああ！！」

「うるさいっ！！」

何この量のエロ本とAVは はっ！！

「俺さあ、思っただよね。女性がそういう単語直接口に出すのってどうよ？」

「アンタが言うなあっ！！」

「…やめなさい」

遥さんの声がする。

今は通学中なのだが放っておくと危険なのでついてくるらしい。
俺は幼稚園生か。

「だから駅の階段でわざと低姿勢になって前の女子高生のスカート
の中を覗くのはやめなさい！」

「いや、腰が痛くて」

「いい加減にしろッ！」

ぐぼっ！鳩尾がっ！！

電車内で俺は席に着き、先刻買った新聞を広げる。
そして新聞のエッチなページを俺と隣の女性にだけ見えるようにする。

たまにこんなページあるよね。

これはいくら遥さんといえども見破れまい。

「へへへへ……」

グシャッ！

「なんで殴るのっ!？」

「その顔がムカついた」

理不尽ッ！

ようやく学校に着いた！
やっと解放されるぜ！

「へいつ彼女！

放課後一緒に遊ばないかい!？」

大丈夫！ホテル代も俺のおごりやあああ!！」

頭があああああ！

血が出そうでない！

「な…なぜここにいらっしやるのでしょうか遥様……」

「アンタの監視するっていったら校長たちが泣いて喜んで入れてくれた。」

くっ……。

校長の裏切り者めえっ！

チキショー！！

俺は決して屈しないぞ！

変態で何が悪い！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7544b/>

変態で何が悪い！！

2010年10月20日13時24分発行